

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2022.1.9-15

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

5:12 私の兄弟たち。とりわけ、誓うことはやめなさい。天にかけても地にかけても、ほかの何にかけても誓ってはいけません。あなたがたの「はい」は「はい」、「いいえ」は「いいえ」でありなさい。そうすれば、さばきにあうことはありません。

5:13 あなたがたの中に苦しんでいる人がいれば、その人は祈りなさい。喜んでいる人がいれば、その人は賛美しなさい。

5:14 あなたがたのうちに病気の人がいれば、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリブ油を塗って祈ってもらいなさい。

5:15 信仰による祈りは、病んでいる人を救います。主はその人を立ち上がらせてくださいます。もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。

5:16 ですから、あなたがたは癒やされるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、働くとき大きな力があります。

5:17 エリヤは私たちと同じ人間でしたが、雨が降らないように熱心に祈ると、三年六か月の間、雨は地に降りませんでした。

5:18 それから彼は再び祈りました。すると、天は雨を降らせ、地はその実を実らせました。

5:19 私の兄弟たち。あなたがたの中に真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すなら、

5:20 罪人を迷いの道から連れ戻す人は、罪人のたましいを死から救い出し、また多くの罪をおおうことになるのだと、知るべきです。

ここでは長老について、信仰による祈りについて、義人の祈りについて書かれています。そしてそのよ

うな人の祈りは「罪は赦され」、「働くとき大きな力」になるということです。

そこで見のがせない大切なポイントがあります。それは「ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表わし…」という点です。パウロは「義人」に対して、「罪を…」を言うのです。ですから罪がない人が「義人」のではなく、罪を認めて正直に「言い表す」ことのできる人が「義人」なのです。この点をクリスチャンははっきりとさせなくてはなりません。

主を信じる者はそのような考え方をする必要があります。自分を何かきよい霊的な者に見てもらいよりも、罪を暴露して神様の赦しときよめを明かにしましょう。またそれを誇りとしましょう。

また人を見ると、罪のない人などないといふことを肝に銘じ、きよそうに見える人よりもむしろ自分の罪や足りなさを、正直に話す人を信頼しましょう。またそのような人に祈ってもらいましょう。

教師や役員やリーダーやスポンサーなどなど、教会での立場のある人も多いですが、立場ゆえによく見せなくなる誘惑から、主に心を守っていたくださいましょう。

エリヤが雨の奇跡をもたらしたとき、エリヤは決して強くはなく、むしろ弱さを露呈していました。エリヤ、モーセ、ギデオン、アブラハムなどなど、聖書の勇者たちはみな信仰の弱い者であったことを思い出しましょう。主に頼り、主の全能とあわれみを証ししましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶10日 火曜

ピリピ

1:1 キリスト・イエスのしもべである、パウロとテモテから、ピリピにいる、キリスト・イエスにあるすべての聖徒たち、ならびに監督たちと執事たちへ。

1:2 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。

1:3 私は、あなたがたのことを思うたびに、私の神に感謝しています。

1:4 あなたがたすべてのために祈るたびに、いつも喜びをもって祈り、

1:5 あなたがたが最初の日から今日まで、福音を伝えることにともに携わってきたことを感謝しています。

1:6 あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださると、私は確信しています。

1:7 あなたがたすべてについて、私がこのように考えるのは正しいことです。あなたがたはみな、私が投獄されているときも、福音を弁明し立証しているときも、私とともに恵みにあずかった人たちであり、そのようなあなたがたを私は心に留めているからです。

1:8 私がキリスト・イエスの愛の心をもって、どんなにあなたがたすべてを慕っているか、その証しをしてくださるのは神です。

1:9 私はこう祈っています。あなたがたの愛が、知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、

1:10 あなたがたが、大切なことを見分けることができますように。こうしてあなたがたが、キリストの日に備えて、純真で非難されると



ころのない者となり、

1:11 イエス・キリストによって与えられる義の実に満たされて、神の栄光と誉れが現されますように。

パウロはピリピの人々を「思うたびに…感謝し」とあります。そのような歩みができるクリスチャンはすばらしいものです。またそのような人は教会の宝であり、神さまご自身の喜びです。

そのような人は神様の視点に立っています。そしてその生きざまは「福音を伝えること」です。また「伝えることにあずかる」という行動です。それが間接的であっても、そのような生き方は教会の指導者や神さまの喜びなのです。

現在もさまざまな良い働きにあずかっている方もいるでしょうが、それは「良い働きを始めた方」によるのであって、すなわち主ご自身によるのであって、尊い働きなのです。福音を広めることに何らかのかたちで関わっているなら、自分が尊い働きをしているということに感謝し、また誇りを持ちましょう。

パウロはピリピの人々のために熱心に祈っています。私たちもきっと誰かに祈ってもらってこそ、今の信仰と働きがあるのに違いありません。感謝し、謙遜になり、また他の人のためにも祈りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶11日 水曜

ピリピ

1:12 さて、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったことを知ってほしいのです。

1:13 私がキリストのゆえに投獄されていることが、親衛隊の全員と、ほかのすべての人たちに明らかになり、

1:14 兄弟たちの大多数は、私が投獄されたことで、主にあって確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆にみことばを語るようになりました。

1:15 人々の中には、ねたみや争いからキリストを宣べ伝える者もいますが、善意からする者もいます。

1:16 ある人たちは、私が福音を弁証するため立てられていることを知り、愛をもってキリストを伝えていますが、

1:17 ほかに人たちは党派心からキリストを宣べ伝えており、純粋な動機からではありません。鎖につながれている私をさらに苦しめるつもりなのです。

1:18 しかし、それが何だというのでしょうか。見せかけであれ、真実であれ、あらゆる仕方でキリストが宣べ伝えられているのですから、私はそのことを喜んでいきます。そうです。これからも喜ぶでしょう。

1:19 というのは、あなたがたの祈りとイエス・キリストの御霊の支えによって、私が切に期待し望んでいるとおりに、このことが結局は私の救いとなることを知っているからです。

1:20 私の願いは、どんな場合にも恥じることなく、今もいつものように大胆に語り、生きるにしても死ぬにしても、私の身によってキ



リストがあがめられることです。

1:21 私にとって生きることはキリスト、死ぬことは益です。

投獄されるとは、辛く苦しいことに違いありませんが、パウロはそれも「福音の前進」になるなら、喜びであるようです。私たちもときには、自分が損や被害を被りながらも、主の栄光のために喜びを持つような信仰を表したいものだと思えます。

「党派心をもって、キリストを宣べ伝える」人々は、おそらくパウロに対抗してのことですから妨害や批判をしたことでしょう。投獄されているパウロにとって、それは「さらに苦しめ」られることでした。しかし彼は宣教を「喜んでいきます。」と言っています。このような人になりたいものです。

せつかく主のわざが進もうとしているのに、自分のプライドや都合で、それを喜ばないとしたら、そのような心は神の国ではみじめなものでしょう。パウロは「生きることはキリスト、死ぬことは益です」と言っていますが、これは特殊な悟りを開いた人の境地ではありません。主の愛によって生きる時、主がそのような思いにしてくださいませ。自分の修行ではありません。主の聖霊によります。

そのような人は恐れず、恨まず、争わず、むしろ愛し、協力し、赦し、受け入れて喜びと平和のうち主の勝利をつかむことができるのです。そのような人になりたいものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶12日 木曜

ピリピ

1:22 しかし、肉体において生きることが続くなから、私の働きが実を結ぶことになるので、どちらを選んだらよいか、私には分かりません。

1:23 私は、その二つのことの間で板ばさみとなっております。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。そのほうが、はるかに望ましいのです。

1:24 しかし、この肉体にとどまることが、あなたがたのためにはもっと必要です。

1:25 このことを確信しているので、あなたがたの信仰の前進と喜びのために、私が生きながらえて、あなたがたすべてとともにいるようになることを知っています。

1:26 そうなれば、私は再びあなたがたのもとに行けるので、私に関するあなたがたの誇りは、キリスト・イエスにあって増し加わるでしょう。

1:27 ただキリストの福音にふさわしく生活しなさい。そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、あなたがたについて、こう聞くことができるでしょう。あなたがたは霊を一つにして堅く立ち、福音の信仰のために心を一つにしてともに戦っていて、

1:28 どんなことがあっても、反対者たちに脅かされることはない、と。そのことは、彼らにとっては滅びのしるし、あなたがたにとっては救いのしるしです。それは神によることです。

1:29 あなたがたがキリストのために受けた恵みは、キリストを信じることでなく、キリストのために苦しむことでもあるのです。



1:30 かつて私について見て、今また私について聞いているのと同じ苦闘を、あなたがたは経験しているのです。

パウロのこのような神中心の信仰は、死を解決したところから来ているようです。実際にキリストンにとては死は敗北でも絶望でもなく、「キリストとともにいる」ことであって、「はるかに望ましい」ことなのです。パウロは自分のためではなくピリピの信徒のために、また主の使命のためにまだ地上にいたいと思っています。

このように死を解決した人は、人生を使命として考えることができます。キリストンとはみなしを解決した者です。それは主イエスの十字架のゆえにです。

パウロはピリピの人々に良い生き方を指導しますが、そのことばは「ただ、キリストの福音にふさわしく生活しなさい。」というものです。たくさんの方の指導のことばも有り得ますが、本質はそこにあります。私たちも同じで、常に救われた者としてふさわしい生き方をしましょう。それが実際に何をすることなのか、そのときの状況に合わせて考えることも大切な訓練です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶13日 金曜

ピリピ



- 2:1 ですから、キリストにあって励ましが
あり、愛の慰めがあり、御霊の交わりがあり、
愛情とあわれみがあるなら、
2:2 あなたがたは同じ思いとなり、同じ愛の
心を持ち、心を合わせ、思い一つにして、
私の喜びを満たしてください。
2:3 何事も利己的な思いや虚栄からするの
ではなく、へりくだって、互いに人を自分よ
りすぐれた者と思いなさい。
2:4 それぞれ、自分のことだけでなく、ほか
の人のことも顧みなさい。
2:5 キリスト・イエスのうちにあるこの思い
を、あなたがたの間でも抱きなさい。
2:6 キリストは、神の御姿であられるのに、
神としてのあり方を捨てられないとは考えず、
2:7 ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、
人間と同じようになられました。人としての
姿をもって現れ、
2:8 自らを低くして、死にまで、それも十字
架の死にまで従われました。
2:9 それゆえ神は、この方を高く上げて、す
べての名にまさる名を与えられました。
2:10 それは、イエスの名によって、天にある
もの、地にあるもの、地の下にあるものす
べてが膝をかがめ、
2:11 すべての舌が「イエス・キリストは主で
す」と告白して、父なる神に栄光を帰するた
めです。

パウロは教会の交わりについて言及します。一番大切なことは、「互いに人を自分よりすぐれた者と思う」ことです。この姿勢があれば、兄弟姉妹を尊重するでしょう。考えや感じ方が違って、自分の主張を押し通すことはありません。ですから一致

が生まれ、愛が生まれ、美しい交わりが生まれま
す。

その模範はイエス・キリストです。主イエスの
へりくだりを思うなら、私たちはどこまでも謙遜
になることができるものです。ですから”自分こ
そ信仰深くて正しい”という姿勢の人は、イエス
様に近いと勘違いしつつ遠くなってしまっている
のです。

クリスチャンには聖霊が働いており、まただれ
にでも主のみこころが働いています。この聖霊に
よって相手を尊重できるのです。決して自分の方
がわかっている、正しいなどと思い込むことのない
ようにしましょう。それは聖霊と交わっていない
証拠です。相手のうちに主のみこころを見出す
訓練をしましょう。心がけていくことも大切です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2:12 こういうわけですから、愛する者たち、あなたがたがいつも従順であったように、私とともにいるときだけでなく、私がいらない今はなおさら従順になり、恐れおののいて自分の救いを達成するよう努めなさい。

2:13 神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。

2:14 すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい。

2:15 それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代のただ中であって傷のない神の子どもとなり、

2:16 いのちのことばをしっかりと握り、彼らの間で世の光として輝くためです。そうすれば、私は自分の努力したことが無駄ではなく、労苦したことも無駄でなかったことを、キリストの日に誇ることができます。

2:17 たとえ私が、あなたがたの信仰の礼拝といういけにえに添えられる、注ぎのささげ物となっても、私は喜びます。あなたがたすべてとともに喜びます。

2:18 同じように、あなたがたも喜んでください。私とともに喜んでください。

「救いを達成」というのは、まだ救われていないということではありません。また人間の頑張りで達成して救われるということでもありません。すでに救われているのです。例えるなら、誰にでも人生があるけれども、その人生を全うするのはまた別であるのと同じです。救われている人生を全うするという意味での「達成」です。

救いには主のものとなったという大切な面もあります。失われた銀貨のように、価値があるのにその

価値を発揮できないでいた者が、主のものとなったことによって、造られた価値を発揮できるようなるのです。それは使命を達成するということです。救いを達成するとはそのような側面があります。

私たちも救われて、立場が神の子となったというだけでは、救いを「達成」したことにはなりません。すなわち救われている人生を全うしたことにはなりません。銀貨のように使命を達成するものなのです。

救われたことによつて与えられた使命が、自分には何であるのかをよく考えてみましょう。そえを主からのものとして受け止めましょう。そして今日の一步を踏み出しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





2:19 私は早くテモテをあなたがたのところ
に送りたいと、主イエスにあって望んでいま
す。あなたがたのことを知って、励ましを受
けるためです。

2:20 テモテのように私と同じ心になって、真
実にあなたがたのことを心配している者は、
だれもいません。

2:21 みな自分自身のことを求めていて、イエ
ス・キリストのことを求めてはしません。

2:22 しかし、テモテが適任であることは、あ
なたがたが知っています。子が父に仕えるよ
うに、テモテは私とともに福音のために奉仕
してきました。

2:23 ですから、私のことがどうなるのか分か
り次第、すぐに彼を送りたいと望んでいます。

2:24 また、私自身も近いうちに行けると、主
にあって確信しています。

2:25 私は、私の兄弟、同労者、戦友であり、
あなたがたの使者で、私の必要に仕えてくれ
たエパフロディトを、あなたがたのところ
に送り返す必要があると考えました。

2:26 彼はあなたがたみなを慕っており、自分
が病気になったことがあなたがたに伝わった
ことを、気にしているからです。

2:27 本当に、彼は死ぬほどの病気にかかりま
した。しかし、神は彼をあわれんでくださ
いました。彼だけでなく私もあわれんでくだ
さり、悲しみに悲しみが重ならないようにし
てくださいました。

2:28 そこで、私は大急ぎで彼を送ります。あ
なたがたが彼に再び会って喜び、私も心配が
少なくなるためです。

2:29 ですから大きな喜びをもって、主にあ

て彼を迎えてください。また、彼のような
人たちを尊敬しなさい。

2:30 彼はキリストの働きのために、死ぬば
かりになりました。あなたがたが私に仕え
ることができなかった分を果たすため、い
のちの危険を冒したのです。

テモテとエパフロデトのことが書かれています。
さまざまな働きの主人公はパウロでしたが、彼も
この二人なしには働きはできなかったでしょう。
このように主のみわざのためには同労者が必要で
す。

自分の働きのために同労者を求めることも大切
です。それは勝手な自分の発想から始まるのでは
ありません。人々が協力してくれるほどの献身の
思いと、主からのビジョンが必要です。

また大切なのは、まず自分自身が同労者となる
ことです。そのような姿勢は、自分主体ではなく
神主体であることの表れです。他の人に協力しな
いで、自分の目的ばかり通そうとするようでは、
主のみこころに生きているとは言えないでしょう。

「互いにすぐれている」と思っているような共
同体（また教会）では、主のご計画が分かち合わ
れ、賛同者が生まれ、同労者が与えられるでし
ょう。前進できます。また主の働き人を孤独のま
まにしないように、愛を持って支えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなた
の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

